



萩城跡

共通



旧厚狭毛利家萩屋敷長屋

## 萩築城の由来と構造 (国指定史跡)

慶長5年、毛利氏は関ヶ原の戦に敗れた結果中国地8か国の領地を削られ周防、長門(現在の山口県)2か国36万9千余石の領主に移封されました。そこで輝元は居城として防府、山口、萩の3か所を候補地として徳川幕府の意向を伺い、萩指月山麓に築城することになりました。慶長9年(1604)着工、同13年竣工。これより文久3年(1863)第13代藩主敬親が藩府を山口に移転するまでの260年間、政治の中心地でありました。明治7年天守閣、居館を解体しました。萩城は平山城の形式に属し阿武川アルタの根元を横断し外堀とし、その外を城下町とし内を城郭とした。外堀の内に三の丸を置き、中堀を掘って二の丸を設け、二の丸の内側に内堀をめぐらして本丸を指月山麓に構えた。さらに指月山頂には詰丸を設けている。

## 旧厚狭毛利家萩屋敷長屋

厚狭に封地を持つ分家毛利氏の萩屋敷の全長51.5mの長大な長屋で、屋根は一重入母屋造瓦ぶき、出格子5ヶ所、格子窓6ヶ所、式台および縁付で仲間部屋もある代表的な武家屋敷長屋で、国の重要文化財。

## ●天守閣跡

本丸の南西に当る位置に高さ14.4m下層は東西19.8m南北16.2mの5層の天守閣がありました。最上層は勾欄をめぐらした桃山初期の形式を示す白亜のもので、初層が石垣の外に張り出し俯射装置として利用できるようになっていました。

## ●自在庵(花の江茶亭)

もと藩主毛利敬親の別邸にあった茶室を明治20年頃移築したものです。幕末の頃敬親が茶事にことよせて家臣とともに国事の密議をこらした場所として有名です。この場所は藩主居館の奥書院にあたり、庭石、池、築山は当時のものです。

## ●梨羽家茶室(煤払の茶室)

東郊中津江にあった奇組士梨羽家(3千2百石)の別邸茶室で、城内煤払のさい藩主が一時居館を出てここに休んだことからこの名があります。全国的にまれな花月楼形式のすぐれた茶室です。

## ●家老福原家書院

萩藩永代家老であった福原家(1万1千余石)の萩邸宅の書院です。天明年間(150年前)の建物で江戸時代中期の上級武士の生活様式がしのべれます。

## ●東園

城内藩主遊憩の庭園であった。二代藩主綱広は園内に稲田を設け自ら耕したという。現存のものは大正14年に復元修理したもので風趣に富む。

## ●二の丸土塀(復元)

二の丸は東西153間、南北58間で、その内に13の矢倉、井戸34か所、蔵元役所などがありました。この土塀は昭和40年春一部復元したものです。

「蓬生ふ 銃眼の中海光る」 横光利一

## ●詰丸跡

指月山頂にあり、陸と海への監視のための望楼であった。頂上の平地を石段で区切り上段を本丸、下段を二の丸として、各々の石垣の上に城壁をめぐらし、矢倉もあった。いまは、石垣、矢倉跡、水溜め2ヶ所が残っており、昭和41年城壁の一部、水溜めを復元整備され往時をしのぶ貴重な存在となっております。

## ●万歳橋

藩学明倫館孔子廟の池にかかっていたものを移したものです。

## ●志都岐山神社

明治12年萩の有志が山口にある豊栄、野田両神社の分社として建てたものです。毛利輝元を主祭、元就、敬親二公を配祀とし、他の代々の藩主は合祀しております。